



河川内の草木除去進む

6月28日の梅雨前線豪雨災害の際、問題になった2級河川内の草木。市役所や関係住民、日本共産党などが県に働きかけをした結果、大きく前進しました。

写真は柿崎区の桜町橋から上流を望んだ風景です。林のような光景は消え、川が広く大きくなった感じがします。付近の住民は、「河川改修を急いでほしいが、(今回の除去によって)川をきれいにしたもらったので一安心」と話していました。(写真は橋爪議員が30日撮影したもの)

日本共産党上越市議団ニュース

21 2005年9月4日
 連絡先 杉本敏宏 524-3787 (東本町5)
 樋口良子 544-6802 (中門前3)
 橋爪法一 548-3628 (吉川区代石)
 事務局長 上野公悦 530-2203 (頸城区中柳町)

シニアパスポート利用者年齢引き下げを



全日本年金者組合上越支部(田中正夫執行委員長)は8月24日、年金者の切実な願い実現を求めて木浦正幸上越市長にたいして申入れを行いました。この申入れには同組合代表13人が参加しました。また、日本共産党上越市議会議員団の杉本団長、橋爪幹事長、上野議員団事務局長も同席しました。

全日本年金者組合は、老後を安心して暮らせるように、年金の改善を始め、福祉・医療・健康・文化など高齢者の生活・地位の向上などをめざして活動をしている団体。今回の申入れは同組合が、昨年行った全組合員対象のアンケートの結果に基づいてまとめたものです。

今回、市長に申入れたのは、シニアパスポートの利用対象年齢70歳から65歳に引き下げること、高田地区内の交通の便の良いところに「市民憩いの家」を建設すること、市単独事業でシヨートステイのベット数を増やし緊急時にいつでも対応できるようにすること、緊急避難時(水

害・火事・地震など)、地域の高齢者に対する援助者を明確にすること、今回の合併によって介護手当や紙おむつ代が減額するなど、高齢者福祉が後退したところがある。それぞれ後退した部分を合併前の状態に戻していたきたい、など9項目です。

これらの要請にたいして木浦市長は、「シニアパスポートはもっとPRが必要と感じている。対象年齢については研究課題とさせてほしい」「『憩いの家』はセンター病院の南側のゾーンで対応できるか検討しよう」と話し合っている」などと答えました。申入れに対する回答は後日、文書で行なうという予定です。



ツリフネソウが咲きはじめました。(30日、浦川原区にて撮影)

年金者組合上越支部が木浦市長に申入れ